

第 3 回 倉 渚 地 域 審 議 会

第 5 次総合計画前期実施計画に係る質疑

事 業 名	No.	質 疑	回 答
耐震補強事業	1	耐震補強事業で、21年度の中央小学校の設計に地方債を使う予定になっているが、今景気が悪く税収が減ってきているので、耐震補強しなくても良い川浦小学校の校舎を使い節約して、統合後のスクールバスなど色々な整備に活かしていくなど考え方を違う方向へ持っていったとしても良いのではないかと。もう一つ廃校になる校舎や敷地の使い道を考えていかなければならないが、今後の使い道はその地域の人で先に検討させる形で模索するのが良いと思う。	倉渚中央小校舎を活用しての統合が決定されたことにより、倉渚中央小校舎の耐震化を進めているのでご理解をいただきたい。廃校になる二つの場所の活用はこれから検討し、地域の方々とじっくり時間を掛けながら地域のためになるような方向で整備が進められることとなる。
	2	耐震補強事業の関係で、中学校のプール建設工事より、小学校統合に向けた工事が早くできれば保護者も安心して通わせられると思うので要望する。	耐震化だけでなく、統合にあたって教育施設を有効な施設にするための色々な事業を考えている。統合は平成23年4月となっている。
	3	<p>前回の懇談会でも質問したが、21年度に倉渚中央小学校で2棟の耐震補強設計をやる計画だが、今の景気の悪い税収の少ない中で他に建物を建てたりすると、総額がどのくらいの費用になるのか。</p> <p>もう一つは、倉渚のように使える小学校が他にあれば、こういう時期であるので費用が掛からないようにして、PTAのアンケートで中央小学校が良いという話になっていたとしても、もう1度PTAの方々に、その費用を他の教育面や通学の関係などに充てるような話を投げかけて、歳出を抑えていくことを考えていただくというのも一つの方法だと思う。</p>	<p>倉渚中央小学校の耐震補強の工事費の総額は、これから行なう調査設計の終了後でないと出ない。</p> <p>また、支出を抑えるために統合の方針を変えることを考えたかどうかという質問だが、現段階では倉渚中央小学校を統合校とする方向で進んでいる。</p>

倉淵地域ふるさと住宅等整備事業	4	上原ふるさと住宅建築の浄化槽排水はどこへ流れていくのか。	市道を30m位下った所の上田原用水という農業用水路へ、組合長の承諾をいただき排水する。大部分は榛名川へ流れる。
簡易水道整備事業	5	倉淵の簡易水道は、市の予算を投入しなくも賄えるか。毎年の配水管工事から予測してどう判断するか。	特別会計で、基本的には水道料収入で維持管理及び整備工事等を実施し、不足分は一般会計から繰り入れてきた。合併前の約1億4千万円の基金も使いながら倉淵地域の水道事業を行っている。
		現在の倉淵地域の水道料は、市の料金と差があるのか。	水道料金体制は、合併当時と変わらない。倉淵地域は旧市内と比較すると約6割程度の水道使用料となっている。
		当分の間は、その料金体制を維持できるのか。	今の水道使用料は、昭和62年から据置きになっている。維持できるまでは今の水道料金体制を維持していくということを確認している。
	6	クラインガルテン施設で水圧が低いが、相間増圧ポンプ場受水槽更新工事では、水圧を上げる工事は行なっているのか。	今回の改修工事はタンクの更新だけであり、水圧を少し上げられるかどうか検討する。 検討の結果、現在のポンプ能力から、増圧は出来ないことが判明したので、ご理解をいただきたい。
小栗の里整備事業	7	小栗の里整備事業の予定地の概要説明があったが、拠点施設の設置は倉淵支所周辺で決定したということか。	そういう方向で進めて行きたい。
		過疎化の激しい所の過疎を止めないと、この中央だけ盛んにしても地域全体の過疎の解消にならない。地域の要望を採択していただくよう要望する。	昨年の小栗の里整備事業基本構想作成にあたっては、地域の方々の意見を最大限取り入れるということで、各種団体へのアンケート結果から3地域が候補に上がり検討を重ねてきた。土砂災害防止法施行に伴う倉淵地域の今年度の調査結果も考慮していかなければならない。 多方向から検討した結果、支所周辺を活用していく方向で現在進められている。単なる改修や建替えでなく、小栗の里の拠点施設を考えていくという視点に立ち事業を展開していく。地

			<p>域の振興、地域の方々の交流、文化活動の場の核にもなるという意味で、この場所が最適ではないかということで、検討が進められている。</p>
8	<p>支所、三団体、J A、公民館が独自の機能を持っており、この敷地面積で駐車場を満たしていると考えるのは無理があるのではないか。</p> <p>二点目は、小栗の里の4つ機能があるが、スペース的に足りるか。</p>	<p>一応の基準・目安となるものを用意し、検討を重ねていくこととなるが、できる限りのスペースを生みだし活用していく。今の支所の庁舎は動かせないの改修し、駐車場やトイレ、キャッシュコーナーなどは更地にした状態から小栗の里を考えていきたい。公民館も単なる建替えでなくて、新しく造る建物の中の一角に公民館が入るというイメージになる。今の公民館の大きさをそのまま造るのでなく、公民館以外の必要なものも併せて用意をしていく。全体の中でできる限りの駐車場等のスペースを確保していきたい。</p> <p>駐車場の関係では、平日は支所や三団体事務所、営農生活センターへ来る方は多いが土曜日曜祭日は多くなく、逆に観光等で訪れたり通過する方はそういう日のほうが多いので、工夫次第でよい方向に結果が導き出せるかなと考えている。この敷地の中を全く新しい絵を描いていく作業を21年度に皆さん方と一緒にやっていきたいと考えている。</p>	

	<p>9 土砂災害防止法の指定状況が判ったら、3地区の中では、支所の周辺は網が掛からず、あとの2ヶ所は網が掛かるが、公共施設を作る場合にどういう規制があり、どういう網がかけられるのか。</p>	<p>土砂災害防止法の特別警戒区域に指定されると、倉淵地域においても建築物の確認申請が必要となる。特別警戒区域の中では災害に耐えられるかという構造規制の枠があり、一定の建物に構造上の義務が課せられ、場所によっては移転の命令が出るような場合がある。大規模開発等特定の開発行為も許可制となる。群馬県が県内の全ての道の駅と防災拠点としての協定を結ぶという考えもあり、特別警戒区域の中に公共施設を造っていくことは現実的には難しいと思う。</p>
	<p>道の駅の関係は県から緊急時の避難所というものであり、公が法を曲げてまでやるのはだめだということになればしかたない。そのへんをよく検討して位置づけはこうだという事を皆さんが納得できるように調べていただきたい。</p>	<p>(要望)</p>
	<p>10 JAでは最盛期には相当の車両が出入りし、道の駅になった時、その車両の出入りに支障が出ると生産者にとっては大変な事態となる。十分なスペースが確保できるのか。</p>	<p>駐車場の問題は本当に大きな課題だと認識している。</p>
	<p>11 JA出荷額も最盛期の約半分に減っているが、どの程度のスペースが必要か承知して設計されるものだとしており、考慮して欲しい。小栗の里の件で、相手のあることだが前橋の旧小栗邸と交流を持って、歴史を物語る大事な建物だからPRする方法を考えてみることを要望。御用材切り出しの絵巻物がはまゆう山荘にあるので、倉淵の歴史・遺産がこう使われていたのだということのを大いに取り上げて皆さんにPRすることを要望。</p>	<p>小栗の里整備事業は地域自慢を外に紹介し、またそれを活用して地域振興に繋げて行きたいという事業だと思う。自然・歴史・文化ゾーンの中で色々自慢できるものを紹介しながら集客に努めて、地場産業の振興に努めて行きたい。また駐車台数は一番心配するところだが、地域にマイナスになってはならないと考えており、利用が不便にならないように、十分に検討していかななくてはならない。</p>

	1 2	<p>小栗の里は、倉渚全域を考えるとということでスタートしたと思う。中核施設は倉渚支所周辺に備えるようだが、同時に中核以外の地域をどのように進めて行くのかの考え方まだ見えてこない。続いて、倉渚支所の交流スペースでは、お客さんがたくさん来る所と、行政のスペースは隔離して欲しい。</p>	<p>小栗の里整備は倉渚地域全体を小栗の里ととらえて地域振興に結び付けて行きたいということで進んできている。一部の過疎対策でなく地域全体の過疎対策を含めた事業・施策ととらえている。小栗の史跡の関係や道祖神、サイクリングする場所等の観光面も全て取り込み情報を伝え、倉渚地域全体の紹介や活用をしていきたい。また、行政の事務所機能の関係は、これから絵を描いていく中で住民の方が支所に来るのに、不便にならないように十分に配慮していきたい。</p>
	1 3	<p>小栗の里の中核施設から、他の地域へどういうふうに広がらせていくのか少し見えない。皆が支所へ来るのでは一方通行になり、周りの場所へどう広げていくか知りたい。</p>	<p>拠点施設は一箇所に集まり活用していくのが一番有効と考えており、そうした観点から場所設定をしていかななくてはならない。ソフトの部分は施設とすれば十分用意し、その活用は地域の方々の考え方を中心に進めていけたらと考えている。地域全体を紹介していきながら、地域全体の方が参加できるような方策をこれから考えて行きたい。</p>
	1 4	<p>小栗の里整備基本構想では、拠点施設以外に駐車場等の必要な整備も中に盛られているが、倉渚の中の各地区をどのように発展させていくのかということまで深く触れていないので、これから検討していかなくてはならない。空き小学校の活用も検討していかなくてはならない課題だが、いきなりこの地域審議会で細かい部分までというわけに行かない。検討する組織を考えていかなければと思う。</p>	<p>十分、地域の住民の方々の意見を聴きながら事業を進めていくことになる。</p>
	1 5	<p>統合してから空き校舎の検討などということはまさに手遅れで、一日も早く空き校舎の使い道を考え、地域の皆さんが、学校がなくなってもよかったなと納得してもらえるような行政執行をしていただきたい。</p>	<p>十分、地域の住民の方々の意見を聴きながら事業を進めていくことになる。</p>

	16	資料1の9ページに小栗の里整備推進委員会開催委員14名とあり、最後になると11名になっており3名減っているが、これはどういう意味か。	人数は、当日の出席者数を記載してある。
		総員は何名いるのか。	総勢17名である。
		そのメンバーは公表してはまずいのか、差し支えなければ後でよいが、知らせてもらえないか。	後で連絡させていただく。

報告事項に係る質疑

事業名	No.	質 疑	回 答
平成21年度当初予算の概要	1	平成21年度の予算では、財政調整基金が著しく減少している。平成22年度以降に財政調整基金が順調に伸びればよいが、こういう状況で、小学校の校舎等も老朽化したものがたくさんあるという話なので、市の財政も大変だという気がする。健全な財政運営をされているので大丈夫だと思うが、平成22年度以降も順調に積立をしてもらわないと、新しい事業に取り組むのに大変かなと思う。	20年度はこれから決算になり、剰余金の2分の1以上を財政調整基金に積むということになっている。そういう積立金や21年度の事業を執行していく上で経費節減等により財源を生みだし、財政調整基金に積み立てて行きたいと考えている。この表では大分少なくなっているが、一定額の金額は財政調整基金に確保できるものと考えている。

その他の質疑

No.	質 疑	回 答
1	<p>ゴルフ場跡地の自然公園事業の計画はどのように進んでいるか。普通のキャンプ場や公園でなく、出来ればクヌギ、ナラ、杉などを植え、炭焼きや椎茸栽培など活用ができるような山の状態にして、管理などで緑の少年団が携わっていけるような計画にして欲しい。</p>	<p>公園整備に向けた基本構想策定のための基礎的な調査を行なっている。調査を踏まえて、今後どのように有効に活用していくかを検討していくための調査段階である。</p>
2	<p>合併により体育協会から体育振興会という名前になり、平成22年度からは、旧高崎市と足並みをそろえて各小学校区あたり15万円という補助金になる。23年度以降は小学校が一つになるので15万円となる。4月の初めに体育振興会の総会があり地域の各クラブや各支部長に説明をする必要がある。次回の審議会で財政課と担当課の基本的な考え方を聞かせて欲しい。</p> <p>倉淵の体育振興会そのものは補助金が来なくなれば何も出来なくなってしまふのが実情で、予算づけを要望する。</p>	<p>本庁の担当課に確認したところ、「合併の協議事項として平成20年度までに調整することになっていたが、現段階では補助金の調整は行なっておらず、今後、協議を進め調整を図っていく。」ということであり、これから、協議や調整が進められていくことになる。</p> <p>(要望)</p>
3	<p>体育振興会の補助金の関係が、白紙ということなので要望しておきたい。倉淵村の時代から体育協会として様々な事業を行なってきた。特に8行政区の区対抗種目を現在も4種目行っており、ただ単に体育振興だけでなく、地域の活性化、地域づくりにも非常に役割を果たしてきたと思う。これがなくなると地域づくりにとっても痛手となるので、是非ともご配慮いただき、あまり変わらずにこれからも事業ができるようお願いしたい。</p>	<p>これから協議を進めていくので、今言われている関係も検討の中で伝えて行きたい。</p>

4	地デジの関係で、倉渚地域の対応について、状況を教えていただきたい。	1月14日に東電が区長や共聴組合長等に対して地デジ移行する説明会を行ない、今のアナログテレビは、2011年7月24日の地上デジタル移行まではそのまま継続してみられる。東電が地域内94箇所程度で地デジの電波調査を行い、地域ごとに受信するための整備に対する提案を行う。東電の提案が出来上がった段階で共聴組合に方向性を示して行く。地デジの共聴組合を組織する場合でも施設を一時金で負担する。維持管理費も向こう10年間くらいを一時金で面倒を見る。今ある共聴施設の撤去も考慮する。という考え方のようである。
5	地デジの放送になるまでには、東電がこの倉渚町エリアの住民に対しては地デジが受信できるようにするということがか。	本来、地上デジタルになると東電の電波障害は無いということであり東電は関係ないという考えであったが、この地域で地デジが見られるようになるまで、東電で考えて負担もしていただけるということである。地上デジタルの電波は風戸峠にアンテナを設置して、大方の所が見えるようになっているようだが、それを調査した結果により、東電が電波のとどいていない所の対応を考え、皆さんに示して了解を得たら設置といった対応まで負担をしてもらえる。調査結果により、東電がどのように設計するかは、6月以降の説明会を待つこととなる。
6	東電一本化と決まっているのか。NTTの光回線が来れば、共聴を使わなくても地デジが見られる。経費的な面なども検討し、個人負担が増えるとなれば、市から光回線を要請していただくという方向性も検討して欲しい。	基本的には、地上デジタルの電波がとどく所は、各家庭で対応するのが原則であり、東電が見えない所の対応を検討し提案する。最終的に地域の住民がどういう方向で進むかその時点で決断をしていただくこととなると思う。光ケーブルの件も別途検討を進めて行きたい。
7	情報社会になって倉渚地域の中でも奥の方は情報の速度が遅い。光ケーブルも検討してくれるということだが、市がNTTなり東電へ要望していただきたい。	市として要請をしていきたい。

8	<p>先ほどの市の予算の中で、(仮称)医療保健センターの建設事業や、メディカルサポートセンターで国立病院の方の事業ですが、医療保健センターの方はここに書いてあるとおり、休日と準夜の診療を備えた施設ということですが、救急時の受け入れ態勢も市の方で整えていただいていると思うが、そのへんのところを若干教えていただきたい。</p>	<p>国立高崎病院の話が出たが、メディカルサポートセンターがこの10月からオープンする予定。当然、国立高崎病院は地域の中核病院として、救急も兼ね備えた病院で、2次医療、3次医療の後方支援病院としての機能を有し、具体的には小児救急医療も含めた救急体制が24時間で機能する形になる。その中に配置される医師が4月から増強されることになっており、全体で10名を超えるメンバーが、配備されるという形になっている。緊急体制は、国立高崎病院の中で、メディカルサポートセンターと連携しながらどういう体制が取れるかということ、10月までに調整を加え、きちんと24時間で受け付けるという体制を取るような形になると思う。当然そのために、市としてもメディカルサポートセンターを作って、国立高崎病院と連携しながらやっていくので、今の意見は国立高崎病院の方にも話を伝えるし、そういう予定になっているということでご理解願いたい。</p>
	<p>最近、親戚が、救急で亡くなったということがあった。私も今、消防と言う立場にいるのですが、是非、救急時の受け入れがスムーズに行くように、これからも整備を進めていただければありがたい。</p>	<p>(要望)</p>